

# 獣害動物で対抗

## 家畜放し飼いで見回りも

獣害対策は獣で。イノシシ、狼、熊など野生動物による農作物の被害や人への被害を防ごうと、家畜なごを利用する試みが奥内各地で行われている。

下高井郡山ノ内町夜間瀬横倉の住民でつくる横倉環境整備組合は、9月から3カ月近く、山際の荒廃農地26㍏で豚約50匹を放し飼いにし、雑草を清掃した。池田進次組合長(51)は「農地に戻すつもりなので、土を掘り起こしてあげる豚を放した。見通しが良くなり、豚は鳴き声も大きいので狼やイノシシが近寄らなくなった」と効果を話す。

2年前から「牛の舌草刈り」事業に取り組んでいる木曾郡木祖村。今年6月から3カ月間、2頭を管地区に放牧した。ススキの原っぱになっていた農地がきれいになり、村によろしく、地区住民からのイノシシとシカの目撃や農業被害の届け出が3割ほど減った。

上水内郡小川村では9月、村民有志約20人でつくる小川村山羊倶楽部がヤギ6匹を成就地区の荒れた農地に放した。農地再生や、乳を加工した食品の製造販売、観光振興が主な狙いだが、野生動物対策も期待。メンバーの湯浅昌謙さん(67)は「ヤギを人や車に慣れさせている段階だが、数年後には30匹まで増やし、もっと人目に付く場所に放したい」と言う。

野生動物を追い払うために北海道犬を育成している伊那市。「追い払い実施者の会」の会員に1匹ずつ計11匹を預け、見回りをしてもらっている。会長で果樹農家の酒井健さん(75)＝同市西春近＝は「狼と出会うと犬が勇敢に追い、狼が出なくなった助かっている」と効果を実感。市は1匹がカバーする地域を広げ、数も増やしたいとしている。

## 県内各地で試み

農業関連資材卸販売の「長野味えさ販売」＝松本市両島＝はハイイロオオカミの尿を輸入、販売している。においが野生動物を遠ざけるといふ。自宅近くに出没する狼対策に、今年秋初めて購入した安曇野市穂高有明の土肥敏夫さん(61)は「安曇野市穂高有明」に始められる。効果があれば人にも勧めたい」と期待していた。

写真・文 太田一彰

信濃毎日 2009年(平成21年)11月30日(月曜日)



ハイイロオオカミの尿を自宅裏の木につるす土肥敏夫さん。穴の開いた容器に10リットルを入れ、3〜6時間隔で枝や棒にくくり付ける。安曇野市穂高有明